

神田日勝記念館

だより

神田日勝記念館 〒081-0292 北海道河東郡鹿追町東町3丁目2 TEL (01566) 6-1555



画室A 1966年

4月から修復に出されていましたが、10月、半年ぶりに記念館に戻りました。

1998 10.31

No.9

開館五周年記念式

六月十七日(水)／鹿追町民ホール

神田日勝記念館の開館五周年記念式が、開館記念日にあたる六月十七日の午後五時三十分より、鹿追町民ホールミュージカルホールを会場に執り行われました。

岡野友行鹿追町長・高橋揆一郎神田日勝記念館長の挨拶があり、引き続き記念館の今日の発展に大きく貢献された方々に、町長より感謝状と記念品が贈呈されました。

感謝状等を贈呈された方々は次のとおり。

開設準備室長、及び初代館長として記念館運営の基礎を築かれた米山将治氏。

神田日勝記念館運営協議会委員長として運営について積極的な提言をなされ、今日の礎を築かれた故柳沢正雄氏。

友の会の活動を通して記念館の活動を支援し、特色ある事業展開で文化振興に大きく貢献された前記念館友の会々々長中村重夫氏。

会場には関係者・来賓を含め約六十名が列席し、記念館の今日の盛況を祝いました。



神田日勝記念館開館五周年記念展

室内風景への軌跡

会期／六月十六日(火)～九月十三日(日)

神田日勝記念館開館五周年を迎え、神田日勝最後の完成作「室内風景」(北海道立近代美術館蔵)を中心に代表作を精選した展覧会を開催しました。

神田日勝が死の直前まで描き続けた「馬(絶筆)」と最後の完成作「室内風景」がそろう。鹿追で展示されたのは昭和四十七年の「神田日勝遺作展」(鹿追町社会福祉会館)から二十六年ぶりにもなります。「室内風景」についてはかねてから「どこにあるのか」との問い合わせが寄せられ、故郷での展覧会を待ち望んでいたファンも多かったようです。

約二か月間にわたるロングランとなった会期中は昨年度同期を上回る入館者があり、あらためて関心の高さをうかがわせました。

本展覧会は、画業を通して見受けられる構図・モチーフ・制作姿勢等から、最後に到達した神田日勝のリアリズムの世界を検証することをテーマとしました。「室内風景」に見られる室内の構成、生活感を漂わせる数々の静物、正面を凝視する人間像などは、それまでの画風変遷の中で培われたものであり、そこに至るまでの断片を代表作の中から見出すことが出来ます。さらに、著述文・関連資料に現れる制作背景を繋ぎ合わせることによ

り、「室内風景」に独自のリアリズム世界の凝集を感じ取ることが出来ましょう。

これらをたどり「室内風景」への結実を見る時、原点への回帰を告げた「馬(絶筆)」の後ろに広がる更なる展開が見えてくるのではないのでしょうか。

総点数二十四点の展示作品には初期の「瘦馬」(北海道立帯広美術館蔵)、「馬」(北海道立近代美術館蔵)のほか、「牛」(北海道立近代美術館蔵)、「静物」(個人蔵)、後期の克明



室内風景 1970年 北海道立近代美術館蔵



7月31日(金) / 鹿追町民ホール

「神田日勝と 北海道の美術文化」



「室内風景への軌跡」展関連事業として、北海道立近代美術館学芸副館長・奥岡茂雄氏を招き、美術講座を開催しました。

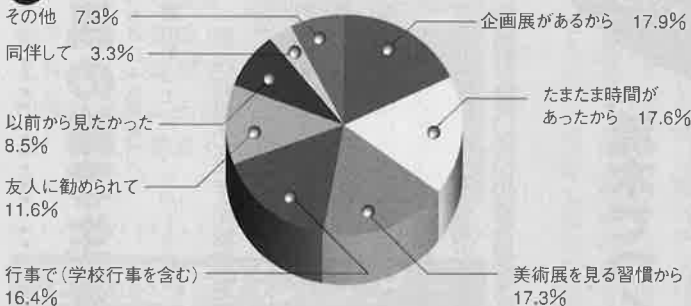
奥岡氏はスライドで北海道を代表する作家の作品を紹介し、自身と作家との会話などを交えながら解説。作品に見られる神田日勝との共通項を取り上げながら、北海道美術の視点からお話いただきました。

また、個人を顕彰する美術館としての運営の特色や地域と個人美術館の在り方についても述べられ、参加者からは「日勝の絵や美術館（記念館）について、認識を新たにしたい」との声も聞かれました。

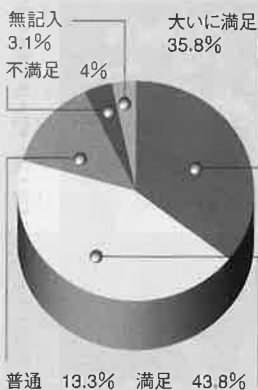
神田日勝記念館開館5周年記念展

「室内風景への軌跡」アンケート調査結果

① ご来館された理由は何ですか



② 「室内風景への軌跡」の感想は



③ 印象に残った作品1点は



描写期にあたる「壁と顔」(北海道立近代美術館蔵)など記念館初展示の作品を多数含む、特に馬を題材とした作品は初期から絶筆までのほぼ全点が並び、画業を通覧するまたとない機会となりました。

二階展示室には「室内風景」に関連したデッサン三点をあわせて展示したほか、モチーフになった人形や灰皿、鞆などの実物や当時の新聞の複製、裸電球などを展示し、その制作過程・時代背景を振り返りました。

この他、中学校の時に描かれたという、現存する唯一の水彩画(鹿追町立笹川小学校蔵)を、参考作品として初展示。一般初公開とな

ったこの作品は当時の農家を描いたものであり、水彩の微妙なコントラストを素早い筆致で生かしています。中学生にして稀有な画力を発揮していた日勝を知る貴重な作品です。

また、本展覧会に関連し、子どもたちが日勝芸術に触れる機会を作り、より深く知るための一助とするワークシートを小学生を対象に発行したところ、授業の一環として活用されました。

五周年記念の展覧会ということもあり、開催を知って遠隔地から来館された方や会期中何度も足を運ばれた方など、日勝の根強い人気を裏付けました。

第四回蕪壑祭

六月十七日(水)

第四回蕪壑祭(開館記念祭)が、神田日勝記念館展示室を会場に開催されました。

ミュージアムコンサートを主体とするこの集いには、特に開館五周年という意義を含めて全道的に高い知名度をもつ地元清水町の「せ、らぎ合唱団」(指揮・高橋亮仁氏)が招かれました。数度に渡り鹿追町で公演を行い、かつ十勝全域にファンをもつ合唱団の演奏ということもあり多くの聴衆が訪れた他、折から来訪中の姉妹提携町である鹿町町の関係者も参加するなど、例年になく盛会裡に進行しました。

内容的には合唱名曲選、誰もが知っている日本の四季の歌、さらに懐かしい愛唱歌の三部構成で、それぞれ趣向を凝らして演奏され、合唱の醍醐味が会場を魅了しました。なおこの演奏会には声楽家高橋伸二氏も特別出演し、「ダニーボーイ」等を独唱しました。



演奏終了後、鹿追町民ホールホワイトホールに会場を移動して、恒例の「ワインとチーズの交流会」。世界各国のワイン、十勝産の多種多様なチーズが並べられた会場に、演奏者と聴衆が一同に会する大団円。実行委員の方々が準備した山菜料理も加わり、特にチーズは完売という盛況でした。参加者各層の方々への即興のテーブルスピーチが一巡したところで、アンコール演奏。せ、らぎ合唱団の温かいサービス精神と、合唱を愛する人々の心の優しさにふれたひととき。有名な第九の演奏が再現されるなど、有意義な交流会となりました。

またこの記念日ははさんだ十日間、北海道電力の協力により神田日勝記念館がライトアップされました。宵闇の中に浮かぶ幻想的な記念館の姿も、また「蕪壑祭」に彩りを添えています。

馬の絵写生会

七月三十日(木) / 鹿追町ライディングパーク

第四回馬の絵作品展関連事業として、町内の子どもたちに馬と触れ合い、絵を描く機会を提供しようと、鹿追町ライディングパークを会場に写生会が開催されました。十二名の参加者は体験乗馬を通して馬と接した後、馬を間近に見ながら画用紙に思い思いの姿を描きました。



子どもワークショップ

「流木でつくる」

八月四日(火) 鹿追町民ホール
七日(金) 神田日勝記念館前庭



夏休みに小学生を対象に開催されたワークショップ「流木でつくる」では、十勝ダムに流れ着いた流木を材料に立体造形を制作しました。

様々な形の流木の形を生かし、鳥や魚、踊る人や楽器などをモチーフに、布や貝殻などを貼り付け着色した自由な発想のモビールが次々と制作されました。作品は神田日勝記念館の前庭に1週間展示され、来館者や公園に来る子どもたちの関心を集めていました。

子ども芸術鑑賞バスツアー

スノーマンに会いに行こう！
5月9日（土）：北海道立帯広美術館

「イギリス絵本の原画展」の鑑賞ツアーが開催されました。

町内の小学生と幼児、同伴の大人など16名の参加があり、子どもたちにはおなじみの「スノーマン」

など様々な絵本の原画を前にして、印刷物とは違う生の筆使いに興味深く見入っていました。



絵画教室—油絵講座

10月6・9・13・16日 神田日勝記念館

絵画教室—油絵講座が10月、4回コースで出村英和先生を講師に迎えて開かれました。4名の参加があり、花のある植木をモチーフに、また、描きたいものがある方は用意したものを題材にして作品の制作に取り組みました。先生の適切な指導を受け、苦戦しながらもそれぞれ作品を描き上げ、完成した作品は、町民文化祭作品展に出品し、成果を発表しました。



芸術鑑賞バスツアー

10月11日（日）：北海道立近代美術館

今年度の芸術鑑賞バスツアーは札幌市・北海道立近代美術館で開催中の「東郷青児展」を中心に鑑賞しました。好天に恵まれ、25名の参加者は美術館での1日を心ゆくまで堪能しました。町外の友の会々員も参加し、美術への関心の高まりと愛好者の広がりを感じられました。



第六回馬耕忌 八月二十三日（日）



第六回馬耕忌が鹿追町民ホールミュージカルホールを会場に開催されました。
第一部は献花と黙とう。田中光俊氏のギター調に乗せて、野の花に飾られた遺影の前に参加者全員が菊を捧げました。続いて都甲雅子さんが昨年引き続き神田ミサ子さんの『私の神田日勝』から選抜した文章を朗読、田中氏の演奏との競演が場内を魅了しました。数々のステージでコンビを組んで演奏活動を展開されている両氏による息のあった「朗読とギター演奏」は、昨年同様彩り深いものとして、この催しに欠かせないものとなっています。

第二部は神田日勝記念館開館五周年記念事業の一環として美術評論家柴橋伴夫、宮城学院女子大学教授井上研一郎、さらに進行役の神田日勝記念館長高橋揆一郎三氏によるアートディスカッションが行われました。柴橋氏は西洋の宗教画との関連で日勝の画業について新しい視点から作品をとらえ、「室内風景」「死馬」等の世界を通じて具体的に自説を展開するなど奥深い提言をされました。また井上氏はスライドを用いながら参加者に丁寧な作品の紹介を行うとともに、三岸好太郎美術館学芸

員時代の経験に裏打ちされた小美術館のあり方についても触れられました。その後は高橋館長の司会により議論の広がりや深化が図られ、今後の日勝理解のために示唆に富む内容が語られました。

第三部は恒例となった野外交流会。前日から実行委員会の方々によって入念な準備がなされた神田日勝記念館の前庭を会場に、好天の下、ジンギスカンを囲みながら、パネリスト・演奏者・来賓を含んだ参加者たちは、思い思いの芸術談議を交わしていました。

毎年地元以外から数人の遠来の日勝ファンが姿を見せるようになり、徐々に特色ある事業として定着しています。

第4回 馬の絵作品展

募集期間：7月15日(水)～9月4日(金)
 作品展：10月6日(火)～14日(水) 表彰式：10月10日(土)
 巡回展：10月20日(火)～11月1日(日) 浦河町立伏木田光夫美術館(仮称)
 11月13日(金)～23日(月) 木田金次郎美術館



北海道知事賞

神田日勝記念館長賞

入賞

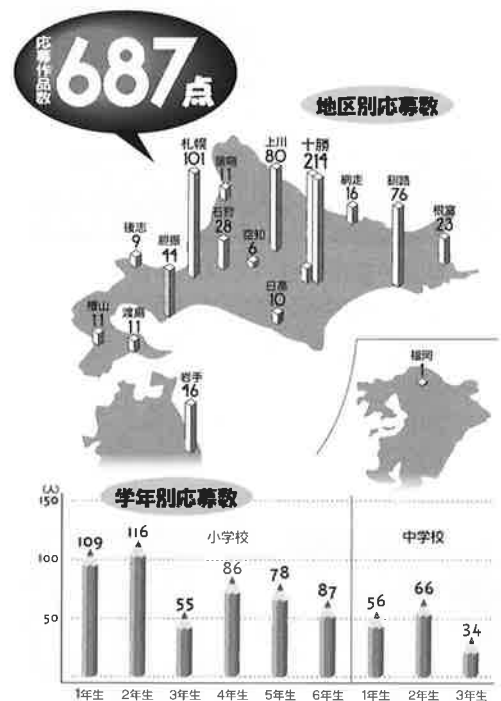
- 北海道知事賞
鹿追町立上幌内小学校 6年
……………船越香南子
- 北海道教育委員会教育長賞
穂別町立仁和中学校 2年
……………宮崎 沙織
- 鹿追町長賞
鹿追町立鹿追小学校 2年
……………津田 隼平
- 鹿追町教育委員会教育長賞
広尾町立野塚中学校 2年
……………石塚 幸絵
- 神田日勝記念館長賞
帯広市立森の里小学校 6年
……………今出 諒
- 北海道新聞社賞
北海道教育大学附属釧路小学校 4年
……………町口 憲紀
- JR北海道賞
広尾町立野塚中学校 3年
……………門脇 悠子
- 十勝毎日新聞社賞
釧路市立鳥取中学校 1年
……………鈴木 千尋
- 日本放送協会賞
函館市立青柳小学校 5年
……………相馬 暁
- 十勝造形サークル委員長賞
北椏山町立北椏山小学校 1年
……………上繩手 拓
- 帯広市教育研究会工芸美術部会長賞
盛岡市立山王小学校 1年
……………藤澤 俊

神田日勝が多くの馬の作品を残したことにちなみ、小中学生を対象に開催している馬の絵作品展は4回目を迎えました。応募された作品は鹿追町民ホールで全点が展示されました。

2か月間にわたる募集期間に687点の作品が北海道内、岩手県、福岡県から寄せられ、審査の結果91点が入賞・入選・佳作に選出されました。本年度の北海道知事賞は鹿追町立上幌内小学校6年生の舟越香南子さんが受賞。齊藤隆博審査委員長は「今年に比べて、絵の中に自分の感性を伸び伸びと表現したものが多く、審査するのに大変苦労しました。」「知事賞の舟越香南子さんの作品は親子の情愛、餌を食べる幸せそうな瞬間をよくとらえています。奥行きを感じさせる背景の処理にも手を抜かない繊細な技法は勿論ですが、物を見る目の確かさが表現された作品です。」と講評しました。およそ1週間にわたる会期中には親子連れなどたくさんの来場者が訪れ、神田日勝記念館と併せて観覧するなど、芸術の秋のひとつを過ごしていました。

10月10日の表彰式では入賞・入選した児童生徒が父母や来賓の見守る中表彰されました。遠く盛岡市を含めた道内各地域からの出席者は、会場一杯に張り出された中に自分の作品を見つけると、改めて受賞を実感し喜んでいました。

なお、今年度は全道規模での巡回展を開催。浦河町立伏木田光夫美術館(仮称)・岩内町の木田金次郎美術館に入賞・入選・佳作作品91点の他、各地域から応募された作品を展示しました。





感想ノ一トより一 ⑦

以来来館して、深い感動と覚え夫に勧められて、今日訪れました。
馬の絵、太い首・足と泥力強く粘り強い農耕馬なんじょうが、
華やかな馬場と馬場の馬とは違、大美はと私は感じました。
絶筆の馬、馬を見れば日は歩と雲とくになりました。
もう一度一人で中へ行って訪ねてみたいです。

帯広市 今井

7/14 昨年に続き二度目の来館。又(いり)に見た「室内風景」
を、いつ見ても感動。「未完の馬」と見るたびに涙が
出そう。また、いつか訪ねてみたい。

釧路西坂

7/15 二度目です。前回もそうでしたが胸がはらばら
何も言えない！すい！ 解馬 飯塚
ありがとうございます。

7-28 20年以上前にお会いした室内風景、馬の絵
4年前に初めて来て、この室内風景、かたじけなく
(当然ながら)そしてがっかりしたものでした。
今日再度見ると、あんなに素晴らしい室内風景を
何かほっとして大層です。
有難うございました。

札幌 中野 裕佳

5周年記念事業と兼ねての来館。今回は鑑賞の「室内風景」に
改めて感激です。

198. 8. 15.

北海道訓子府 菊池

9/27 練馬美術館で友人にすすめられて見た。日月勝つか
忘れられず。とうとう帯広にやってきました。

練馬の馬子

展覧会事業 会場/鹿追町民ホール

十勝の風景を描く―帯広信用金庫カレンダー原画展
四月二十七日～五月六日



十勝在住の画家に依頼して十勝の風景を描き、本年三十作目を数えた帯広信用金庫が発行するカレンダー。その第一作「扇ヶ原展望」、第二作の「広尾海岸」は神田日勝が原画を制作しました。

日勝が引き続き描くはずであったカレンダーの原画は画家の急逝により他に引き継がれ今日に至っています。神田日勝記念館開館五周年記念事業の一環として、帯広信用金庫の協力を得、原画二十九点が一堂に展示されました。武田伸一氏の「北の神々」は武田伸一記念ギャラリーのご好意により同会場に展示、平成五年採用された「晴れた日の風景」は常設展示作品として隣接する記念館で観覧いただくことになりました。物故された画家の作品もあり、味わい深い風景画の展覧会となりました。

北海道女流選抜展 98 鹿追巡回展
五月二十一日～二十八日 鹿追町民ホール

北海道の女流画家で女子美術教育者でもあった古瀬キヨ氏の遺志を継いで、道内女流画家の具象系の中堅・新人を推薦してその作品を紹介してきた「北海道女流選抜展」。その第五回記念展が札幌時計台ギャラリーでの本展終了後、神田日勝記念館開館五周年記念事業として鹿追町に巡回しました。

記念展のため、過去の記念賞受賞作を加えた全道の女流の大作八十点余の作品群が鹿追町民ホールのホワイトホールのみならずロビーを埋め尽くしました。またこの展覧会と連動して出品者による鹿追展ツアーが企画され、オープニングに併せてツアー参加者も出席する中、作家選定員である吉田豪介氏と柴橋伴夫氏による作品合評を含めた対談も行われました。会期中は全道各地から出品画家を含めた多くの鑑賞者が会場を訪れました。

園田郁夫展
八月十三日～二十四日

北海道唯一の二科会の会員であり、新道展・平原社展で制作を続ける園田郁夫氏の作品展。

過去二科展に出品された「北国の詩」「人と牛」「異国の詩」といった百号から百五十号の重厚な油彩画作品二十五点が展示されました。数多い個展の中で代表作品が一堂に展示される機会は少なく、画家の制作の歩みを知る上で意義ある展覧会となりました。



ポストカード 新規作成 限定発売

4/28から5/5まで、鹿追町民ホールで開催された「十勝の風景を描く 帯広信用金庫カレンダー原画展」にあわせ、そこに出品された神田日勝の作品「扇ヶ原展望」「広尾海岸」のポストカードをそれぞれ2,000枚作成し記念館売店にて限定販売しています。



▲広尾海岸 1969年
▶扇ヶ原展望 1968年



INFORMATION

今後の事業予定

- ・子ども絵画教室（冬休み）
- ・子どもワークショップ（冬、春休み）
- ・絵画教室（2月）
- ・展覧会事業
中谷有逸展（11月25日～12月1日）

※表題は、館長 高橋撰一郎筆です。